



果樹カメムシ類が多く見られます

県内全域で、果樹カメムシ類の発生が平年に比べて多く確認されています。今後も発生の拡大が予想されるため、ほ場で増加が見られる場合には防除を行いましょう。

1 発生状況

(1) 【予察灯誘殺数(ツヤアオアカカメムシ)】

5月から5月第3半旬にかけて、呉市安浦町の予察灯にて、ツヤアオアカカメムシの誘殺数を調査しました。累計誘殺数は、過去10年の平均の14.5倍となっています。(表1、図1)。

(2) 【越冬成虫数(チャバネアオカメムシ)】

12月中旬から1月中旬にかけて、県内33地点で採取した落ち葉から、越冬成虫数を調査しました。捕獲地点率は、過去10年の平均の2.0倍となっています。また、平均虫数は、過去10年の平均の2.8倍となっています(表2、図2)。

(3) 【越冬成虫数(クサギカメムシ)】

10月上旬から隙間トラップを設置し、越冬成虫数を調査しました。平均虫数は、過去3年の平均の5.4倍となっています(表3、図3)。

2 今後の予想 多

3 防除上の注意事項

(1) 果樹カメムシ類(図4)は移動性が高く、飛来は園地間差が大きいいため、夕方または早朝にはほ場周辺も含めて巡回し、ほ場への飛来が認められたら早急に防除してください。

なお、果樹カメムシ類は夜行性であるため、薬剤防除の時間帯としては、夕方が最も効果的です。

(2) 果樹カメムシ類の加害(図5および6)は長期間に及ぶため、継続してほ場の観察に努め、防除実施後も園地への飛来が認められる場合には、追加の防除を実施してください。

(3) 有袋栽培では、袋掛け作業を早めに実施します。なお、袋をかけても、果実が肥大して果実袋に密着すると、袋の上から吸汁されることがあるので注意してください。

(4) 合成ピレスロイド系の農薬は天敵への影響が大きいいため、連用するとハダニ類、カイガラムシ類の発生が多くなるので注意してください。

(5) 黄色灯はチャバネアオカメムシに対して忌避効果があるため、設置している園では、薬剤防除を徹底した上で、早期に点灯してください。

(6) 薬剤散布については、農薬使用基準(使用量、希釈倍数、使用時期、使用回数等)を遵守

するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底してください。

(7) なお、最新の農薬情報は、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」の「農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp/>)」を参照してください。

4 関連データ

表1 ツヤアオオカメムシ誘殺数

	月	5月			
		半旬	1半旬	2半旬	3半旬
安浦	本年	5	5	6	16
	平年	0.2	0.3	0.6	1.1

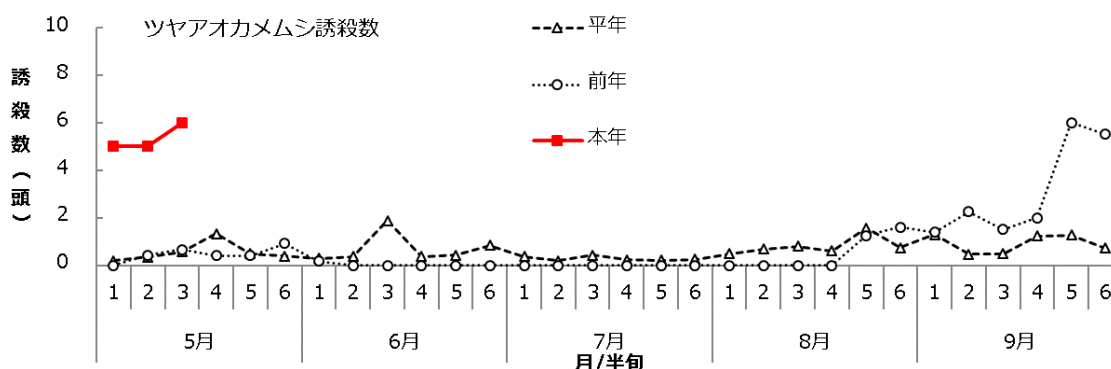


図1 ツヤアオオカメムシ誘殺数の推移

表2 チャバネアオカメムシ越冬量

捕獲地点率(%)		平均虫数(頭/地点)	
本年	平年(10年)	本年	平年(10年)
36.4	18.5	0.76	0.27

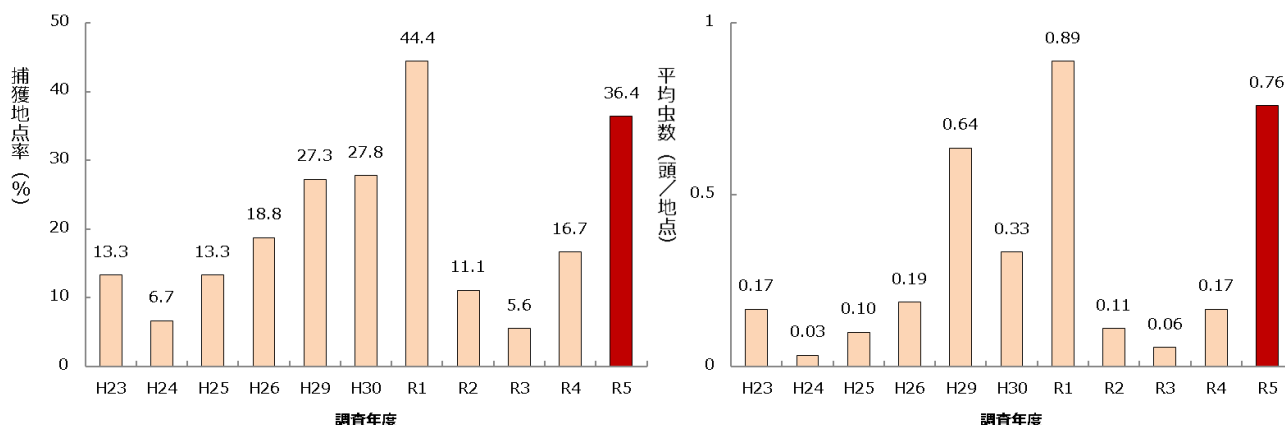


図2 チャバネアオカメムシ越冬量の年次推移

注1：平成26年度までは見取り法、平成29年度以降は篩法により調査しました。

注2：平成27、28年度は見取り法と篩法の両方で調査しましたが、調査地点数が少なかったため平年値から除外しました。

表3 クサギカメムシ越冬量

平均虫数(頭/台)	
本年	平年(3年)
20.8	3.9

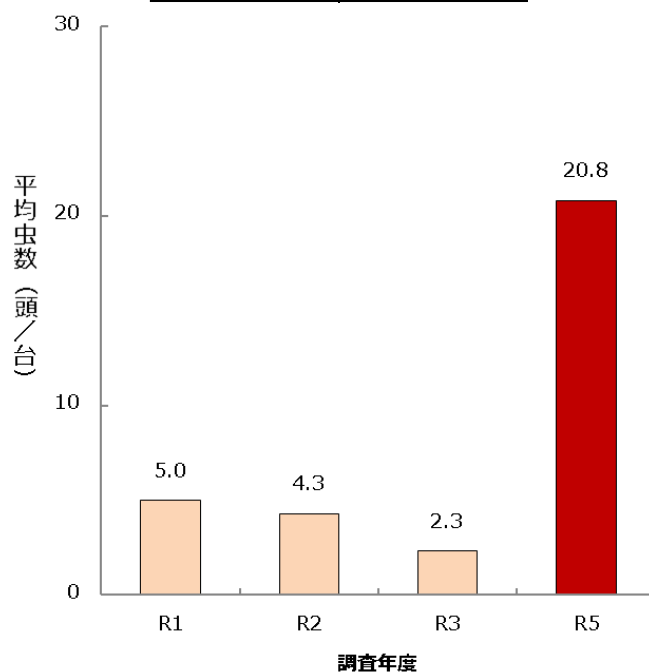


図3 クサギカメムシ越冬量の年次推移

注1：令和4年度は、鳥インフルエンザの発生により調査は未実施です。



図4 果樹カメムシ類 (左からチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)



図5 果樹カメムシ類による被害果 (なし)



図6 果樹カメムシ類による被害果断面 (なし)